

ユニット化した鉄筋製品を建設現場に運ぶ独自「プレハブ工法」 人手不足の解消、安全性と生産性を向上

1967年に前代表者の実父が有限会社芳崎鉄筋を設立。県内では有力な鉄筋業者として個人住宅から病院、学校等の大型工事まで受注している。2008年に現代表が取締役に就任。2015年に新工場を設立。工場設備のオートメーション化にて生産性向上、効率化を図り、鉄筋加工、スポット溶接、ユニット化（鉄筋の仮組）からなるプレハブ工程を独自に構築。品質確保と工期短縮を実現し、毎月2,000トンの加工量を誇る。2020年、大分商工会議所第18回おおいたびジネス オブ ザ・イヤー受賞。

所在地 大分県大分市曲408番地の1
電話/FAX 097-569-5971/097-569-4961
URL <https://www.houzaki.jp/>
代表者 代表取締役 芳崎 一郎

設立 1967年
資本金 300万円
従業員数 35人



人づくりへの積極的な取組で、外国人技能実習生のリポート率は9割以上

業績が苦しい時期も断固として社員を解雇せず、代表者のゼネコン時代の人脈・経験を活かして工事を完遂させ、永年にわたり地域での雇用に貢献している。また、年に数回、県内の公立、私立の技術系高校に出向いて出前授業を実施するなど、これからの人づくりに積極的に取り組んでいる。平均年齢30代半ばという若い従業員に加え、現在ベトナム人研修生を13名受け入れており、外国人技能実習生の2度目の受入りレポート率は90%以上を占め、人づくりを積極的に取り組んでいる。



多能工の育成にも注力

独自工法は人手不足の解消のみならず、現場作業員の安全性、生産性を向上

鉄筋工事業は、ひと昔前は人手がかり重労働で危険とのイメージだったが、それを払拭するため、5つの自社工場を有機的に連結し、鉄筋加工、製作、ユニット化まで施して建設現場に運ぶ「プレハブ工法」を実施している。人手不足の解消のみならず、現場作業員の安全性、生産性を高めた。現場作業員に無理なく計画的な生産体制を構築。代表者は「人は人であり、モノなんかではない」との信念でベトナム研修生を含め分け隔てなく接し、安全確保のため自ら工場および各現場を回り「ひとづくり」に真摯に取り組んでいる。



プレハブ工法による生産性向上

規模の大小を問わず安定した品質を短納期で届ける独自工法で受注伸長

バブル崩壊後の不景気のなか、大手ゼネコンで大型物件を担当していた現代表が帰郷し、1998年に県内最大のドーム型陸上競技場（現：昭和電工ドーム大分）の鉄筋工事を一社で受注。その際、人手も資材も思うように確保できなかった教訓から、事前に自社工場内でユニット化して建設現場に運ぶ「プレハブ工法」を考案。2012年のJR九州大分駅高架事業において、高所作業の低減による安全性が評価され、主要駅の高架工事の受注に成功。規模の大小を問わず安定した品質で短期納品を強みに県内外に広くアピール。



工事実績 大分マリンパレス水族館「うみたまご」